

令和4年度 学校生活相談センターの相談受付状況について

心の支援課

1 学校生活相談センターの概要

児童生徒や保護者が、いじめ・不登校などの学校生活における様々な悩みについて24時間相談できる窓口として、文部科学省「24時間子供SOSダイヤル」を活用し平成27年度に開設。平成28年度からフリーダイヤルとなった。

フリーダイヤル 0120-0-78310 E-mail gakko-sodan@pref.nagano.lg.jp

2 相談受付状況

(1) 受付種別

区分	相談件数					延べ回数					
	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	
電話	平日昼間	329	312	325	305	295	527	497	539	440	453
	夜間・休日	355	394	406	328	296	593	879	636	573	548
文書（メール・FAX・手紙）	84	116	94	129	136	190	228	140	195	204	
来所	0	6	2	0	2	16	10	3	0	3	
計	768	828	827	762	729	1,326	1,614	1,318	1,208	1,208	

⇒電話による相談件数は、平日昼間、夜間休日ともに僅かに減少した。

⇒相談件数、延べ回数ともに、メールでの文書相談が増加した。特に相談件数は5年間の中で最も多かった。

(2) 相談者の内訳

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
子ども	254	34.9%	443	36.7%
本人	249	34.2%	438	36.3%
本人以外の子ども	5	0.7%	5	0.4%
大人	445	61.0%	727	60.2%
父	78	10.7%	173	14.3%
母	282	38.7%	428	35.4%
祖父	1	0.1%	1	0.1%
祖母	17	2.3%	26	2.2%
その他の大人	67	9.2%	99	8.2%
不明	30	4.1%	38	3.1%
計	729	100.0%	1208	100.0%

⇒相談者の内訳は、大人が子どもの約2倍であった。

⇒母親からの相談が最も多く、全体の約4割であった。

⇒子ども本人からの相談は、母親に次いで多かった。

(3) 他機関との連携

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
関係機関へ連携した案件	84	11.5%	132	10.9%

【主な連携先】※（ ）は延べ連携回数

小中学校（38回） 高等学校（42回） 市町村教育委員会（11回） 児童相談所（2回） 警察関係（4回）

⇒相談者が希望した場合や、虐待や自殺をほのめかすなどの場合は、関係機関への情報共有や適切な対応のための連携を図っていた。

(4) 相談内容 (主訴別の件数)

【子どもからの相談】

区分	R4				R3		R2		
	相談件数	割合	延べ回数	割合	相談件数	割合	相談件数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	18	7.1%	21	4.7%	27	10.5%	19	6.7%
	不登校・登校渋り	18	7.1%	37	8.4%	12	4.6%	16	5.6%
	暴力問題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
	異性関係・性の問題	7	2.7%	42	9.5%	9	3.5%	2	0.7%
	対人関係・友達関係	33	13.0%	44	9.9%	34	13.2%	45	15.8%
	非行・不良行為	1	0.4%	5	1.1%	1	0.4%	0	0.0%
	心身の疾患・障がい	7	2.7%	13	2.9%	10	3.9%	14	4.9%
	学業・進路	21	8.3%	34	7.7%	19	7.3%	28	9.8%
	自分関連(性格など)	44	17.3%	98	22.1%	37	14.3%	24	8.4%
	ネット・ゲーム関連	3	1.2%	4	0.9%	2	0.8%	4	1.4%
学校・教師に関すること	66	26.0%	96	21.7%	54	20.9%	49	17.2%	
家庭・私生活に関すること	23	9.1%	28	6.3%	30	11.6%	47	16.5%	
意見・問い合わせ	8	3.1%	11	2.5%	11	4.3%	20	7.0%	
その他	5	2.0%	10	2.3%	12	4.7%	16	5.6%	
計	254	100.0%	443	100.0%	258	100.0%	285	100.0%	

⇒子どもからの主訴は“先生の対応に差があり傷ついた”など「学校・教師に関すること」が最も多かった。
 ⇒次いで“つらい気持ちや漠然とした不安がある”など「自分関連(性格など)」や“友人との関わり方やグループの輪への加わり方に悩んでいる”など「対人関係・友達関係」に関する相談が多かった。

【大人からの相談】

区分	R4				R3		R2		
	相談件数	割合	延べ回数	割合	相談件数	割合	相談件数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	49	11.0%	73	10.0%	50	10.8%	48	9.1%
	不登校・登校渋り	62	13.9%	109	15.0%	71	15.3%	94	17.9%
	暴力問題	1	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.6%
	異性関係・性の問題	11	2.5%	12	1.7%	2	0.4%	0	0.0%
	対人関係・友達関係	19	4.3%	27	3.7%	28	6.0%	12	2.2%
	非行・不良行為	2	0.5%	3	0.4%	2	0.4%	3	0.6%
	心身の疾患・障がい	4	0.9%	4	0.6%	9	2.0%	17	3.2%
	学業・進路	13	2.9%	21	2.9%	14	3.0%	17	3.2%
	自分関連(性格など)	6	1.3%	8	1.1%	1	0.2%	4	0.8%
	ネット・ゲーム関連	3	0.7%	3	0.4%	5	1.1%	4	0.8%
学校・教師に関すること	144	32.4%	208	28.6%	148	31.9%	115	21.9%	
家庭・私生活に関すること	53	11.9%	140	19.3%	50	10.8%	59	11.2%	
意見・問い合わせ	57	12.8%	85	11.7%	59	12.7%	127	24.1%	
その他	21	4.7%	33	4.5%	25	5.4%	23	4.4%	
計	445	100.0%	727	100.0%	464	100.0%	526	100.0%	

⇒大人からの主訴は“子どもに寄り添った対応がない”“いじめやトラブル時の学校の対応に納得がでない”など、「学校・教師に関すること」が最も多かった。
 ⇒次いで“学校を休みがちな子どもにどう声をかけたらよいか”など「不登校・登校渋り」に関する相談が多かった。

3 成果と今後の対応

年間の総相談対応数の推移として、令和元年度を除き、概ね同水準となっていることから、当センターが安定的に一定の相談ニーズに応える役割を担っていることが推察される。

今後も引き続き、相談者が気軽に相談できる窓口として、相談者に寄り添った対応を大切にしながら、LINE相談とも連携し、相談者自身が自ら動きだすきっかけとなる相談体制の構築に努めていく。